

憲法記念日に思う

バーニー・サンダースの選挙運動に学ぶ

宇都宮健児（弁護士）

今年の5月3日で日本国憲法が施行されて70年になりますが、憲法は今最大の危機を迎えています。それは、憲法9条に違反して集団的自衛権の行使を容認する安保法制が成立・施行されるとともに、2016年7月に行われた参院選挙の結果、改憲勢力が衆参で国会の改憲発議に必要な3分の2以上を占めるに至ったからです。

しかしながら、衆参で憲法改悪に反対する勢力が3分の1を超えれば憲法改悪を阻止できますし、安保法制に反対する勢力が衆参で多数になれば安保法制を廃止することができます。したがって、憲法が最大の危機を迎えている現状においては、選挙闘争は極めて重要な闘いになってきているといえます。日本国憲法前文でも、「日本国民は正当に選挙された国会における代表者を通じて行動」するとして、議会制民主主義制度が謳われています。

そして、選挙闘争に関しては、アメリカのバーニー・サンダースの選挙運動から学ぶ必要があると思います。

バーニー・サンダースは、2016年に行われたアメリカ大統領選挙に民主党から出馬し、予備選でヒラリー・クリントンに敗れましたが、広がる貧困と格差の是正を訴えて「サンダース旋風」を巻き起こし、クリントンと接戦を演じました。

サンダースは、1972年1月に行われたバーモント州の上院議員選挙に立候補しましたが、その時の得票率は2%でした。もちろん、落選です。その後、1972年7月に行われたバーモント州の知事選挙に出馬しますが、この時の得票率は1%で落選します。それでもあきらめず、1974年に行われたバーモント州の上院議員選挙に出馬して得票率は4%、1976年のバーモント州の知事選挙に出馬して得票率は6%で、いずれも落選しましたが、得票率はじわじわと伸ばしていきます。

そして、1981年3月に行われたバーモント州で一番大きな都市バーリントン市の市長選挙に出馬して、14票差で当選し、共和党、民主党の2大政党に反旗を翻して当選した全国でただ1人の市長となります。その後、3回再選され1989年までバーリントン市長を務め、1990年に行わ

れたバーモント州の下院議員選挙に出馬して、共和党と民主党の候補者を破り当選し、40年ぶりの無所属の下院議員となります。得票率は56%でした。

その後、1991年から2007年までバーモント州から選出された下院議員を務め、2007年から現在まではバーモント州から選出された上院議員を務めています。このようにして、サンダースは、それまで共和党の牙城であったバーモント州を自らが圧倒的な支持を得られる州に変えていきました。

サンダースは、選挙を一つの運動と位置づけています。

サンダースは「私がバーリントン市長だった時、投票率が2倍近くになった。なぜか？ 私たちは低中所得層の人々のために闘うことを明確にし、そのとおり実行したからだ。多くの低所得者がそれを理解し、その結果、私たちを支持した。投票に意味があると思えば、貧困層は投票する。この国の支配階級は、投票率を低くしておくことが、自分たちにとっていかに大事か、とてもよくわかっている」と語っています。そして、「選挙運動は、ただ票を得て選出されるということよりも、もっとはるかに大きなことでなければなりません。それは人々を教育し、組織するのを手助けするものでなければならぬのです。もしそれができたら私たちは、将来にわたって政治の力を変えることができます」と語っています。

このような、サンダースの選挙を一つの運動として位置づける考え方は、日本の市民運動が大いに学ばねばならないところだと思います。